

「ふれあいの里山」復活大作戦



日時	2020年 12月 5日(土) 10時00分～ 15時 00分		
場所	金ヶ崎公園	天候	快晴
参加者	エコウイング会員 6名(うち午後のみ2名)、事務局 2名、計 8名		

● 午前

12月に入って、朝夕は冷え込む日が多くなってきました。今日の金ヶ崎公園も、まだ寒さを覚える中を、朝10時に6名のメンバーが活動に集まりました。先月は雨模様で活動が休止になったため、2か月ぶりの活動です。公園のコナラやアベマキ、メタセコイヤなどの木々はすっかり黄葉が進み、快晴の青空の下で初冬の美しい里山の風情でした。

公園事務所の会議室で、コロナ対策のため手指の消毒、検温、マスク着用をして、ミーティングをしたあと、いつものように公園内のコースを巡って、昆虫を中心に自然観察をしました。気温が低く、観察できた昆虫は限られた種類になりました。代わりに野鳥が色々と姿を見せ、楽しませてくれました。

● 午後

午後はメンバーが増え、公園入口の散策路入り口付近で、カクレミノやクロガネモチなどの常緑樹や、多数生えていた低木のクサギなどの除伐を中心とした里山整備作業に取り組みました。昼を過ぎると気温も上がって、作業をしていると汗ばむほどになり、冬晴れの中で快適な活動ができました。

ケガなどの事故もなく、14時40分ごろ作業を終え、参加者全員で集合写真を撮ったあと会議室に戻り、茶菓子で今日の疲れをいやしてから、15時ごろ活動を終了しました。

● 次回の活動は、来年2月13日(土)の10時からの予定です。

1月は正月休みとします。また、2月の第1土曜日は他の用件があるため、第2土曜日の活動になりますので、ご注意ください。

自然観察(その1)



自然観察(その2)



里山整備(その1)



里山整備(その2)



里山整備後のすっきりした林床



作業終了後の集合写真



今日の自然観察日記(その1)

初冬の金ヶ崎公園は、気温も低く昆虫の観察には不向きな条件で、観察できた種数は限られました。その中で、薄いベージュ色のガが落ち葉の上をたくさん飛び回っていました。この季節に活動が活発になる「クロスジフユエダシャク」です。チョウのなかまではキタキチョウが姿を見せました。トンボのなかまは、まったく観察できませんでした。そのほかに、ハラビロカマキリやクビキリギス、ヨモギハムシ、ヨコヅナサシガメの幼虫を観察しました。また、カクレミノの葉の上に、びっしりと小さな虫が集まっているのを見つけました。名前は分かりませんが、少し気味の悪い光景でした。

クロスジフユエダシャク



キタキチョウ



ハラビロカマキリ



クビキリギス



ヨモギハムシ



ヨコヅナサシガメの幼虫



カクレミノの葉の上に集まる小さな虫



左の写真の一部拡大



今日の自然観察日記(その2)

野鳥は、常連のメジロやキジバト、冬鳥のアトリが姿を見せました。ふもとの北浦池とその周辺では、カイツブリやカルガモ、カワウ、アオサギと冬の水鳥のホシハジロを確認しました。午前中の観覧会の際には、上空を猛禽類のハイタカとノスリが飛ぶ姿を見つけました。

植物ではマンリョウやミヤマガマズミの赤い実、季節外れのモチツツジやスマレの花を楽しめました。

メジロ



キジバト



アトリ



カイツブリ



カルガモ



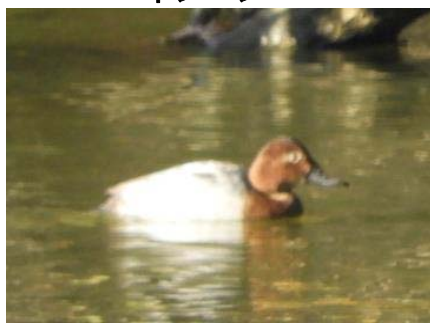
カワウ



アオサギ



ホシハジロ



上空を飛ぶハイタカ



上空を飛ぶノスリ



季節外れのモチツツジの花



季節外れのスマレの花



マンリョウの実



ミヤマガマズミの実

